

第二期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第9回）  
議事要録

日時 平成25年01月22日（火）午後7時～午後9時00分

場所 クリーンセンター3F 見学者ホール

出席 小澤紀美子会長、水谷俊博副会長、新垣俊彦委員、島森和子委員、高石優委員、飯村雅洋委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、千綿澄子委員、木村文委員、藻谷征子委員、塩澤誠一郎委員、狩野耕一郎委員、越智征夫委員、高橋豊委員、早川峻委員、興相信子委員、木村浩委員

事務局（馬場主査他）、コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）

傍聴者3名、記者0名

欠席 金子和雄委員、岡田敬一委員、村井寿夫委員、高橋健一委員

配布資料 1. 次第、2. タウンウォッチングにおける主な意見・感想・質疑まとめ、3. クリーンセンターまちづくり委員会提言書と既設の対比表（委員）、4. 創造的再利用について（委員）、5. エコプラザの基本理念、6. 施設周辺整備協議会報告書（案）、7. 視察先の案内、8. グリーンカーテン大作戦

## 1. タウンウォッチング報告

- ・事務局よりタウンウォッチング及び第4回作業部会における主な意見・質疑などについて報告があった。
- ・委員から資料について説明があった。

（以下、質疑）

- ・委員 クラブハウス周辺の樹木の保全についての議論も記録に残しておいてほしい。
- ・事務局 タウンウォッチング報告に追加する。
- ・会長 成蹊大学の塀も改善されるとよい。国土交通省の景観街づくり関係の助成金の活用なども考えられる。

## 2. 報告書のまとめ

- ・事務局より資料について説明があった。
- ・委員より資料の説明があった。
- ・委員（資料説明要旨）空間の使い方の話に加え、運営方法の在り方も今年度の検討の中で位置づけられればと思う。市民の誰もが利用できる場として管理運営をしていくべきであり、市民の活動をサポートするような機能も必要と考える。また、ライフスタイルを変えていくための場として運営をしていく目的もあると思う。資料で創造的再利用について紹介したが、廃棄素材を創造的に活用するニーズは武蔵野市でもあるのではないかと。この資料で紹介した岡山県玉島の「アイデア・アール・ラボ」を視察できればと考えている。

(以下、質疑)

- ・**会長** 基本理念の事業内容の箇所に、運営の担い手についても追記しておくのが良いのではないか。横浜市鶴見にある東京ガスの施設では、若手のインタープリターを育成しているので、参考になるのではないか。そのようなファシリテーターのような人材がいなければ、運営は難しいと考える。廃棄物の教育は小学校4年生で行うが、これは施設の見学のみとなっている。委員の話にあった創造的再利用という話は、小学校、中学校の図工や技術の課程でも扱っているので参考になるかもしれない。エコプラザでアートディレクターを雇うことは難しいことも考えられるので、市内で運営の担い手(ファシリテーター)を発掘していくことも基本理念に入れてもよいのではないか。
- ・**委員** エコプラザの事業内容も重要。今は事業内容を手広く記載しているが、エコプラザのスペースも限られていることから、ある程度中身は絞らなければまとまらないのではと考えている。また、第1期で行ったタウンウォッチングの内容も反映させてほしい。
- ・**会長** 今年度の報告書では、今年度に行ったタウンウォッチングの内容を記載する形になる。周辺整備については、今後長い視点で見えていくべき課題であり、その中で第1期で行ったタウンウォッチングの結果も検討・反映されていくと思う。クリーンセンターの計画が、より具体的に進んでいったときに周辺整備についても検討・整理を今後行っていくことになる。エコプラザの計画を来年度以降詰めていくことを考えると、現時点では、事業内容についてはあまり絞りすぎず、広く議論しておくことがよいと考える。ただ、事業内容を絞るべきという意見があったことは報告書に載せておくべき。
- ・**委員** ごみ問題の根本は、スクラップアンドビルドの街づくりの考え方にあるのではないかと考えており、この考え方を変えることが必要ではないか。このために具体的なプロジェクトを動かしてみることもよいと考える。
- ・**委員** 次年度以降は、盛り込んだ様々な要素の中から、重要な部分を取り出して掘り下げることが必要だが、今年度は幅広く書いておくことでよいのではないか。また、次年度以降、具体的な活動を始めることも視野に入れたい。実際にプロジェクトを動かしてみることで、その経験をフィードバックさせることで、エコプラザの運営の議論もさらに進むのではないか。例えば、空家の活用などが考えられる。
- ・**会長** 具体的なプロジェクトの運営においては、助成金を受けることなども考えられる。以前、川越の空家活用について見学に行ったが、観光ルートから外れた箇所を再生させようと活動していた。プロジェクトの進め方などは参考になるかもしれない。
- ・**委員** このエリアはクリーンセンターと運動施設がある地域だが、運動施設の利用者にもごみの問題に対する意識を向けてほしいと感じている。全市民的にごみ問題に関心を持ってもらいたい。不要になったものについて相談できる場になるとよい。エコプラザの運営が、市民の日常生活に浸透したものになることを望んでいる。
- ・**会長** ごみ問題についても、共感性がなければ人間の行動は変わらないということだと考える。自分たちが使用しているものの成り立ちについて学べる場にエコプラザがなってほしいと思う。若い世代にも参加してもらい、それがエコプラザの運営に繋がればよい。表面だけのリサイクルを行う場ではないと思う。
- ・**委員** 啓発や学びの場とまではいかななくても、日常の中での具体的な活動のサポートの場となる、日常生活で不要になったものについての悩みを相談できるような場になればと思う。

- ・**会長** クリーンセンターに足を運んでもらうための具体的な動機としてはよいと考える。次のステップでは具体的なプロジェクトを進めることも考えられるが、協議会とは別の場での活動となるかもしれない。是非活動を立ち上げてほしい。西宮にあるNPOでは、中学校単位で、持続可能な社会づくりのための活動として、同様の交流ネットワーク機能を作る活動を行っている。報告書案については、今後、立体的な表現が必要ではないか。基本理念と、具体的なところを組合せて具体的なイメージを想起させるものになるとよい。
- ・**委員** 住民一人ひとりが悩みを相談できる場があるかという点は地域にとって重要であり、これがその地域の「地域力」にも繋がってくると思う。
- ・**会長** フェイスブックやツイッターなどの活用も考えられる。
- ・**副会長** 具体的なプロジェクトを進めていくことについてはよいと思う。運営に関しては、サポーターの取込み方も重要になってくる。美術館の例なども参考になるのではないか。今年度の報告書は絞らずに広く意見を記載しておき、ハウツー本のように、様々なアイデアを載せておく形でまとめると、次年度以降の活動の際の参考になるのではないか。
- ・**会長** 具体的にプロジェクトを進めていく中では、若者を取り込んでいくことも重要。具体的にプロジェクトが動けば、様々な具体的なアイデアも出てくるのではないか。
- ・**委員** エコプラザの運営については、現在、市内で活動している団体でまちづくりに関心のある団体もうまく巻き込んでいくことが重要。
- ・**事務局** 次回の協議会までに、報告書のまとめ方について、作業部会を開催したいと考えている。

### 3．視察について

- ・事務局より視察の提案があった。
- ・場所は京都の京エコロジーセンターを予定、日時は3月3日(日)を予定している。詳細については別途連絡。

以上